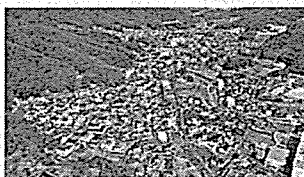


災害に強いまちづくり

公民館と防災士を中心とした「地域防災事業」

温品公民館



温品の概要

広島駅から

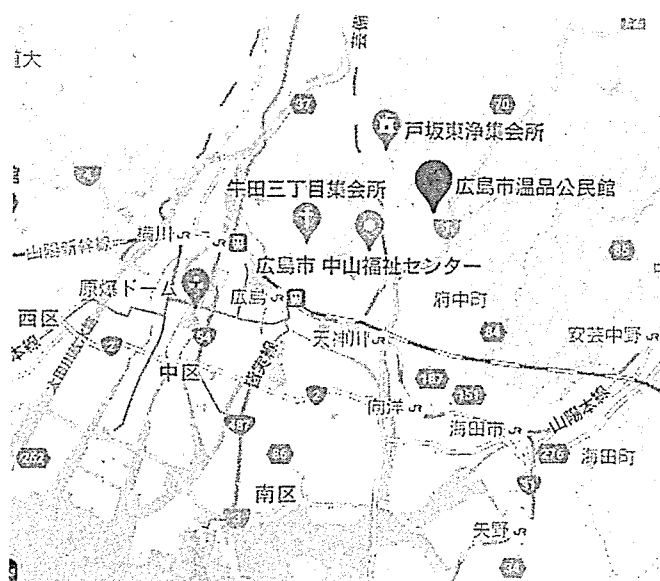
北北東約4 km（ほぼ南北に細長い）
広島駅北口から車で約15分

豊かな自然

呉娑々山や高尾山などがあり、府中大川（温品川）が流れ、田畑も点在。
その反面、大雨時には川の氾濫の危険性が高く、多くが土砂災害警戒区域に指定。

数多くの史跡

疊谷弥生遺跡群、永町山城跡など



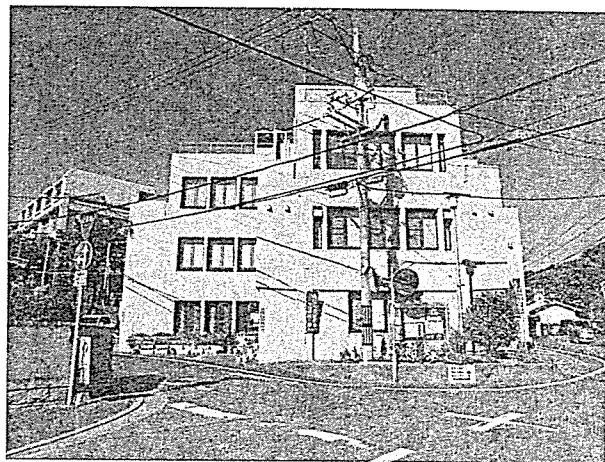
温品公民館の概要

昭和45年(1970年)4月1日 開館

広島市との合併により、昭和49年(1974年)11月、
「安芸町公民館」を「温品公民館」に改称。

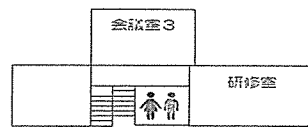
対象エリア：温品及び上温品地区

職員：4名



施設の概要

【3階】



【各部屋の定員・広さ】

3階

研修室 (定員50人 60㎡)

会議室3 (定員18人 36㎡ ※ピアノあり)

2階

実習室 (定員36人 68㎡)

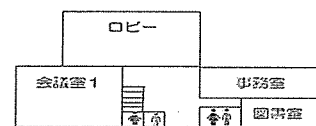
和室 (定員60人 53㎡ ※約29畳)

会議室2 (定員24人 46㎡)

【2階】



【1階】



1階

会議室1 (定員24人 46㎡)

事務室・図書室・ロビー

温品公民館対象エリアの人口

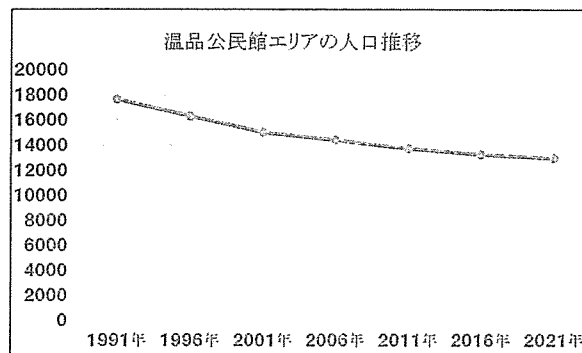
30年前(平成3年3月末)

現在(令和3年3月末)

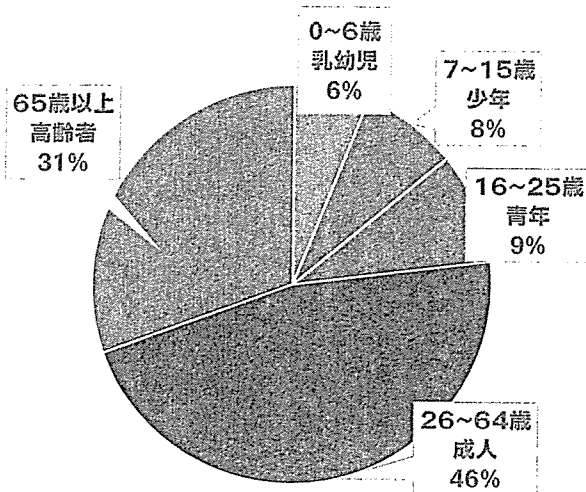
17,598人



12,941人 (約4,600人減)



世代別人口（令和3年3月末）

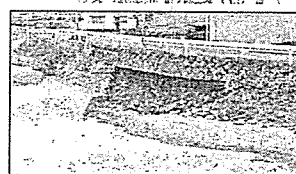
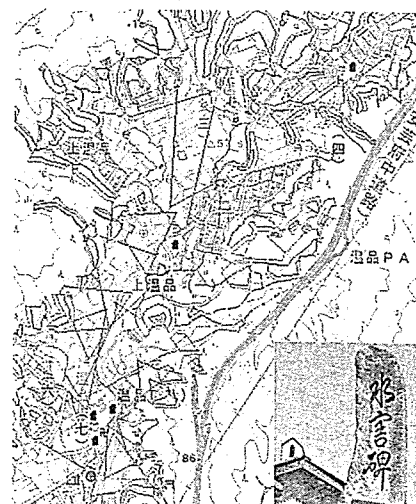


高齢化率
(65歳以上の割合)

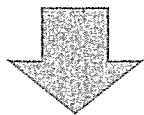
約31%

背景 (地域防災事業に取り組んだ)

- 公民館対象エリアは、大雨時に川の氾濫の危険性が高く、多くが土砂災害警戒区域に指定。
- 近年、日本各地で自然災害が頻発し、温品においても平成30年以降、護岸崩壊等の災害が多発。大正15年の豪雨災害後には後世にその惨状を伝える水害碑も設置。
- 平成26年8月20日の広島豪雨災害を契機に自主防災会メンバーの防災意識が高まる。
- 平成28年以降、地域の防災士が年々増加。防災士から活動の場が求められる。



こうした背景から



防災士とは“自助”“共助”“協働”を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人で、全国に約21万人(令和3年5月末現在)います。

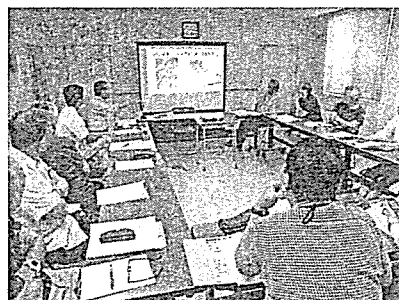
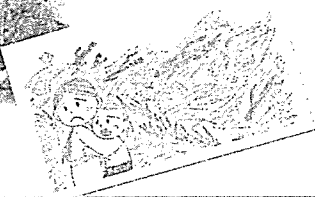
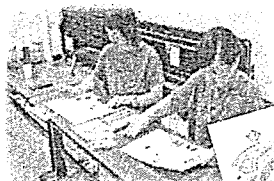
公民館と防災士を中心とした「地域防災事業」に取り組む

- 具体的には、
- ・ 防災士のスキルアップ
 - ・ 防災士の学習成果の還元
 - ・ 地域住民の絆づくり
 - ・ 地域防災力の向上

「防災士のスキルアップ」のための事業

「防災学習会」

- ・ 防災士が中心となって毎月1回のペースで実施
- ・ 「避難所運営ゲーム」「防災すごろく」「非常用持出袋詰め」等の実習や研修
- ・ 防災フェアの企画など



紙芝居「温品水害神物語」の作成

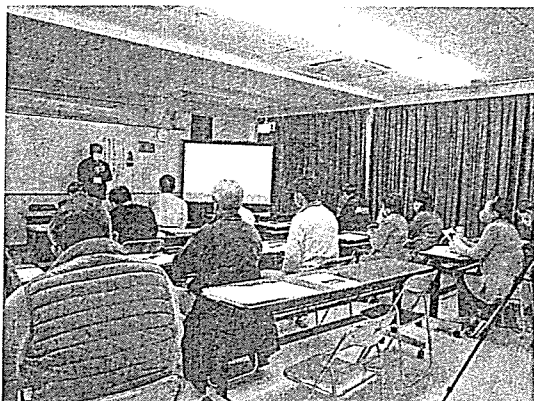
- ・ 大正15年の水害を後世に伝えるために女性防災士が作成
- ・ 当時の資料収集と被害に遭われた方から当時の話を聴き、約半年かけて令和元年度に完成

「防災研修会」(令和3年4月実施)

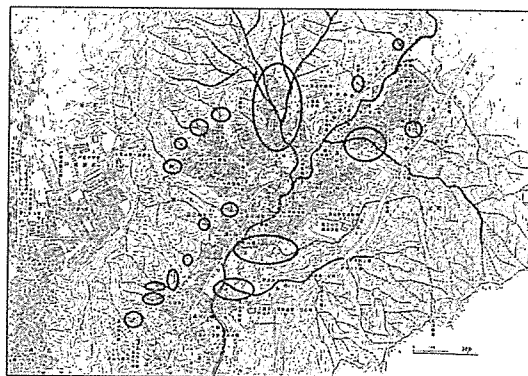
【対 象】 温品・上温品防災士(16名参加)

【講 師】 広島県自主防災アドバイザー 越智秀治先生

【テーマ】 これからの災害にどう向き合うか ～地質学的に見た豪雨災害の特徴と防災のあり方～



温品地域の水系と土石流の警戒区域



「防災士の学習成果の還元・地域住民の絆づくり・地域防災力の向上」のための事業

「防災フェア」(平成30年・令和元年の9月に開催)

(温品公民館全館 及び 温品小学校グラウンドを使用)

【体験】 避難所受付シミュレーション、防災クイズラリー、避難所運営ゲーム、防災すごろく
防災紙芝居、土石流発生装置、震動体験、浄水装置、非常持出袋詰め体験

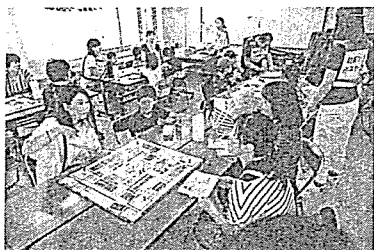
防災グッズ作り、消火器体験、AED体験、ちびっこ消防士体験、防災食、簡易ベッドづくり

【展示】 豪雨災害記録写真展、崖崩れ発生模型、防災グッズ、避難情報収集法

【協力団体】 地域団体、東消防署温品出張所、国土交通省中国地方整備局、ラボテック(株)



防災すごろく



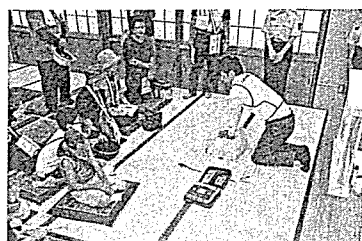
土石流発生装置



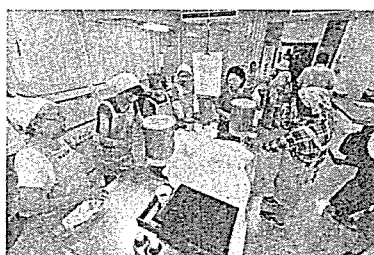
非常持出袋詰体験



AED体験



防災食づくり



簡易ベッドづくり



「避難所運営訓練(令和2年9月実施：防災フェアの規模を縮小して実施)」
(指定避難所である温品小学校体育館を使用)

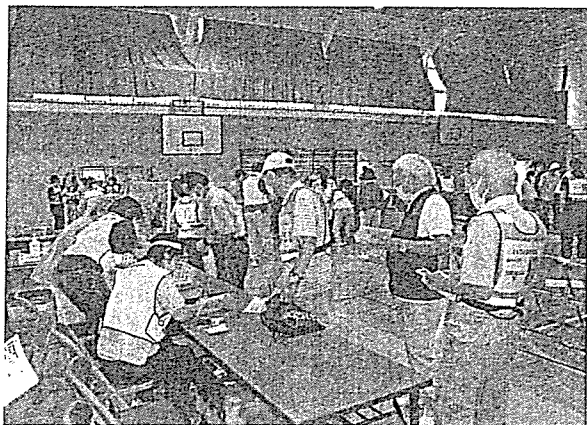
〔内 容〕 地震を想定した避難所運営訓練

〔参加者〕 防災士、町内会長、自主防災会長など(88人)

会場設営



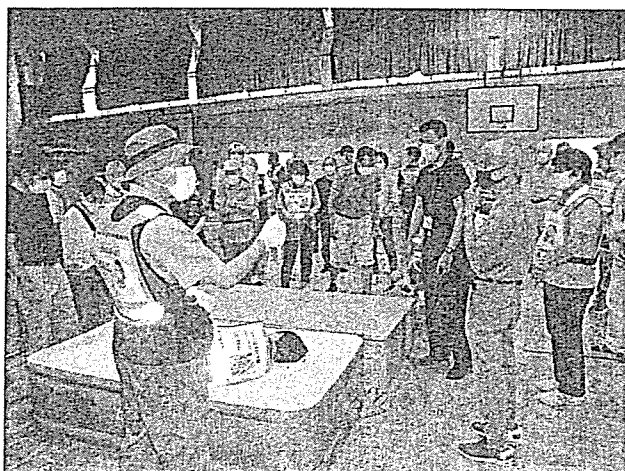
受付の様様



居住エリアへの案内



簡易ベッドの組立



避難所の模型展示

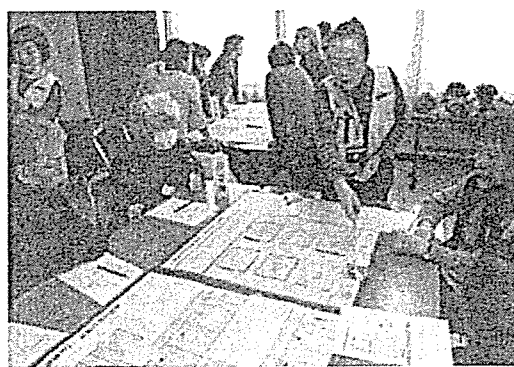
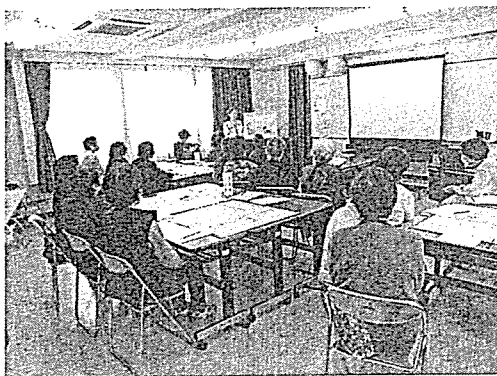


「女性のための防災講座」(令和2年2月 温品公民館で開催)

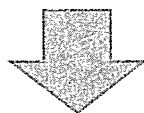
[内 容] ●紙芝居上演「温品水害碑物語 ～わすれないで、あの日のことを～」
●ワーク「女性の視点で避難所運営ゲーム」

[助言者] 女性防災士

[参加者] 温品女性会会員 20人

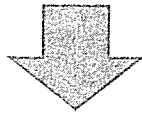


成 果



- 公民館が軸になることで、個々に防災の必要性を感じていた地域住民の力を結集し連携することができ、地域全体で取り組む体制づくりができた。
- 防災フェアや防災士の積極的な活動で主体的な学びから地域住民の防災意識が高まった。
- 防災士の知識と技術が向上し、地域リーダーとして育成することができた。
(高齢者や子ども対象の地域行事等さまざまな場で活動し、防災意識の向上に貢献中。)
- 防災士の地域リーダーとしての活動を通して、地域の声を直接聴く事で新たな課題を見つけ、その課題解決のために活動の場を広げていく学びと活動の循環が生まれている。

今後に向けて



- 土砂災害等の警戒区域の住民と区域外の住民との防災に対する意識の格差を埋め、社会的弱者等すべての人が安心して暮らせる災害に強いまちづくりのための事業を今後も実施していく。
- 今後は防災士だけでなく、より多くの地域住民が主体的に学ぶことで、地域に内在する課題を浮き彫りにし、解決策を共に考えていけるような事業を展開する。
- オンラインによる学習機会の提供等を検討し、あらゆる人が主体的に学びやすくなる場づくりを進めていく。

防災カードと命の袋の配付

避難所での受付をスムーズにするために防災士が作成。防災カードには連絡先等を事前に記入しておく。「命の袋」は常備薬等を入れてもらうもの。早めの避難を促すために配付。

